

侵略的外来種とその管理に関するテーマ別評価報告書・政策決定者向け概要(SPM)の概要

- 生物学的侵入のプロセスを通して侵略的外来種が自然や人々に及ぼす影響や、侵略的外来種の管理について幅広い観点から評価
- 2019年から2023年にかけて86名の専門家(うち日本人4名)が13,000以上の文献をもとに作成した報告書の政策決定者向け要約、2023年8~9月開催の第10回IPBES総会において承認、発表

定義

- ◆ **生物学的侵入(biological invasion)** : 生物種が人間の活動によって意図的または非意図的に自然の生息・生育域外に輸送または移動され、新しい地域に導入されること、そしてそこで定着・拡散する場合を含むプロセス
- ◆ **侵略的外来種** : 外来種のサブセット(一部)であり、導入先で定着し、拡散して生物多様性や地域生態系、生物種に悪影響を及ぼしていることが知られている動物、植物またはその他の生物

A.侵略的外来種は、自然、自然の寄与、良質な生活に対する重大な脅威である

- 地球上のあらゆる地域で、**人々と自然は侵略的外来種によって脅かされている**
- 生物多様性と生態系に大きな、**時に不可逆的な変化を引き起こし、有害で複雑な結果**をもたらす
- **経済、食料安全保障、水の安全保障、人間の健康に重大な悪影響**を及ぼす
- 性別や年齢の違う人々への異なる影響など、**人々の疎外や不衡平を助長**
- 生物学的侵入の管理や、侵略的外来種の予防と防除に関する**政策とその実施は不十分**

B.全世界で侵略的外来種とその影響が急増しており、今後も増え続けると予測されている

- 侵略的外来種の**輸送、導入、定着、拡散を人間活動が促進している**
- 侵略的外来種による脅威は、世界の全地域で著しく増大しており、**外来種の導入速度が将来さらに加速**する恐れ
- 自然界における変化要因の継続的な増大は、**侵略的外来種の数とその影響を今後大幅に増加させる**可能性がある
- 自然界では**要因間に複雑な相互作用とフィードバック**があり、**将来の脅威の大きさの予測は困難**

C.侵略的外来種とその悪影響は、効果的な管理によって予防・軽減できる

- **予防と備え**は最も費用対効果の高い選択肢であり、侵略的外来種の脅威を管理する上で極めて重要
- **根絶**は、特に隔離された生態系における小規模で拡散の遅い侵略的外来種個体群に対して効果を発揮
- **封じ込めと防除**は、陸域と閉鎖的水系で効果的なことがあるが、海洋と連続的水系ではほとんど効果がない
- **順応型管理**(生態系再生を含む)により、陸域と閉鎖的水系の生態系機能と自然の寄与を回復させられる
- **関係者、先住民と地域コミュニティの関与と協力**によって、生物学的侵入の管理活動の効果が改善する

D.生物学的侵入を管理するための野心的な進歩は、統合的ガバナンスによって実現できる

- 侵略的外来種の対策は、**統合的なアプローチ**と**戦略的な行動**が必要であり、**セクターや国をまたぐ協力が重要**
- **オープンで相互運用可能な情報システム**は、生物学的侵入の管理の協調と有効性を強化する
- 侵略的外来種の予防と防除には**普及啓発**や**コミット**、**能力構築**が欠かせず、**早急で継続的な行動が必要**